

DUAL TURBO TIMER

"BLITZ" – means the ability to progress, every performance parameter of the motor-car. Established in 1977 "BLITZ" has developed and evolved automotive.

取 扱 説 明 書

BLITZ

この度は、本製品をお買上頂き、誠にありがとうございます。本製品は、誤配線でターボタイマー本体だけでなく、他の部品まで破壊する場合がありますので本説明書を良く読んだ上、間違いのない様に確実に配線してください。確実に配線するために、別売りカプラーを販売しておりますのでご利用下さい。（価格1800円〜）
誤配線及び取り扱い上でのターボタイマー本体破損もしくはそれに伴う車両の破損に対しては、当社では一切責任を負いませんのでご了承下さいませようお願い致します。

本分中のマーク説明

危 険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことに至る切迫した危険状況を示します。
警 告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。
注 意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が軽傷または中程度の傷を負う可能性が想定される危険な状況、および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。
お 願 い	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、故障する内容および利用できない機能や事項などの内容を示します。 故障に関与しない特別な説明

本製品を購入されたら最初に

- 本製品はターボチャージャー付き車のアフターアイドルリングを目的にエンジンを作動させ、ブースト圧及びそのピーク値を表示させる装置です。
- 本製品を使用する前に、本取り扱い説明書を必ず読んで注意を守ってください。
- 装着車両にこの製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して弊社は責任を負いませんので、詳細はその製品に備え付けの取扱説明書などをお読みください。
- お客さまご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用やその使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた損害については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承下さい。
- この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。

警 告

タイマーによるアイドルリング中は、車両から離れないでください。車両が動いたりすると危険です。

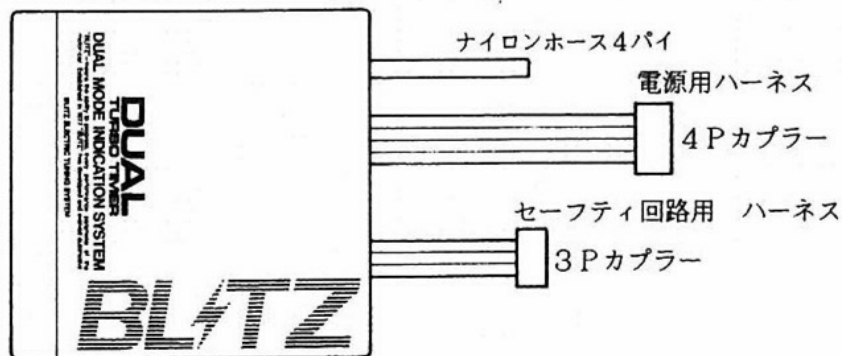
寒気の悪い車庫などでのご使用はしないでください。一酸化炭素中毒となり危険です。

デュアル ターボタイマー特徴

- デュアルターボタイマーにはデジタルブースト計とターボタイマーの2つの機能があります。
- ターボタイマーはオートモードとマニュアルモードの2つの設定が選べます。(オート10秒～5分、マニュアル10秒～9分50秒 マニュアルは10秒おきに設定可能)
- オートモードのアフターアイドルリング時間はマニホールド圧より自動算出しているため正確です。
- ブースト計には通常のブースト計モードとピーク値モードの2つがあります。
(ブースト表示範囲-76 cmHg～2.5 Kg/cm²)
- 表示器にはLCDを使用し視認性に優れています。
- ターボタイマー作動中にはデジタル音が鳴り、表示部LCDバックライトが緑色から赤色に変わりタイマー作動が容易に確認出来ます。
- 各スイッチボタンを押すごとに確認音(ピッ音)が鳴りボタン操作の確認が容易です。
- セーフティ回路を内蔵した安全設計です。(注1)
- 配線は、誤配線のないように簡単な車種別専用ハーネス(別売)を設定、コネクターの差し替えだけで簡単、確実に取り付けることが出来ます。

※注1 セーフティ回路について(セーフティキルスイッチ) 取付はセーフティ回路の取付方法を参照

- ターボタイマーによってエンジン作動中に、イグニッションキーを抜いて走行を開始するとステアリングがロックされて思わぬ事故を招く恐れがあります。セーフティ回路は万が一走行しようとパーキングブレーキを解除した瞬間、エンジンを停止させ事故を未然に防ぎます。
- 車速センサーを標準装備した一部上級車では、更に車速センサーへの結線により車両が動いたと同時にエンジンを停止させ事故を未然に防ぎます。



4Pコネクター

- アカ : メイン電源(常時12V)
- ミドリ : イグニッション系統
- アオ : アクセサリー系統
- クロ : GND(ボディーアース)

3Pコネクター

- オレンジ : 車速信号
- ムラサキ : Pブレーキ
- シロ : シフトロック

構成部品及び付属品リスト			
☐ タイマー本体	1 個	☐ 両面テープ	1 個
☐ 電源用ハーネス	1 個	☐ マジックテープ	1 個
☐ セーフティ回路用ハーネス	1 個	☐ エレクトロタップ	2 個
☐ ナイロンホース4φ 2M	1 個	☐ タイラップ 大	2 個
☐ Tパイプ	1 個	☐ タイラップ 小	3 個
☐ ナイロンホースジョイント	1 個	☐ 取説	1 個
		☐ 保証書	1 個

お 願 い

この説明書には製品を使用する際と自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載されています。良くお読みになって正しくお使い下さい。

本書は、いつでも取り出して読めるように車内に大切に保管しておいてください。
この製品は取扱説明書に記載のパーツリストの部品、付属品で構成されています。不足や不具合がある場合には、販売店または弊社まで御連絡下さい。
装着前に落としたり、装着時に無理な力を加えると装着不良で故障の原因になる場合がありますので注意してください。
この製品を分解しないでください。この製品は精密機器ですので不必要な分解をしますと機能が損なわれる恐れがあります。機能が損なわれますとエンジンが破損する事があります。
この製品の取り付け作業は、バッテリーのマイナス端子を外して電源オフの状態にしてください。電圧がかかった状態で取り付け作業を行いますと、作業中の接触により感電したり、本製品や取り付けた車両の電装品の破損の原因となりますので注意してください。
この製品の設置場所は、ヒーターの出口や直射日光のあたるダッシュボード等温度の高くなる所を避けて設置してください。温度が高い所へ設置しますと通常の電子部品作動限度の温度を越える場合があります。その電子部品回路が作動不良を起こしたり、ケースが変形して操作できなくなる事があります。

- 電源回路が12Vと24Vの併用車および24V車には適合しません。また、ディーゼル車はオートモードでのタイマー使用は出来ません。
- セーフティ回路への配線をおすすめします。スピードセンサーへの配線とパーキングブレーキへの配線を怠ると、重大な事故の原因となる場合があります。
- セーフティ回路配線のアース結線は絶対にしないでください。破損および重大な事故の原因となる場合があります。
- 誤配線は絶対にしないでください。誤配線した場合、本製品の破損や取り付けた車両の火災につながりますので危険です。誤配線や結線不良により発生する、本製品の破損や取り付けた車両の破損については弊社は一切の責任を負いません。

装着可能自動車と製品仕様

□車名：電源回路が12Vの自動車 但し、ディーゼルトurボ車のオートタイマーでのタイマー使用は不可

□製品名称：デュアルターボタイマー

□製品番号：14289

□仕様目的：ターボチャージャー付き自動車のアフターアイドルリング及びブースト圧とその最高値の表示

作業前およびご使用の前に以下のことについてご確認ください。

警 告

自動車の部品交換は本来設備の整った自動車工場で、専門の教育を受けた整備士が行うべき危険な作業です。専門外のお客さまが作業すると怪我や火傷の可能性があって危険です。

警 告

一酸化炭素中毒防止

エンジンをアイドルリングしたまま休憩や仮眠をすると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性があります。必ずエンジンを停止してください。

排気ガスには有毒な成分が含まれています。閉めきった車庫や倉庫の中などでエンジンを動かし続けると一酸化炭素中毒の危険性があります。必ずエンジンを停止してください。

マフラーのテールパイプからは有毒な排気ガスが排出されます。停車または駐車中に車の後ろに人がいたり特に幼児やペットを置いてエンジンを動かし続けると一酸化炭素中毒の危険性があります。必ずエンジンを停止してください。風向きにも注意してください。

警 告

触れると火傷

エキゾーストマニホールド、ラジエーター、エンジン本体は特に高温になっていて触ると大火傷の恐れがあります。

エンジンが動いている時あるいはエンジンを停止した後はエキゾーストマニホールド、ラジエーター、エンジン本体やマフラーは高温になっています。特に後端のテールパイプの部分は自動車の外に露出していて触れやすいので気を付けてください。触れると火傷の危険性があります。

お子様には特に注意してください。またトランクから荷物を出し入れするとき衣服がテールパイプに触れると焦げたり溶けたりすることがあります。停車、駐車する際には周囲に気を付けてください。

警 告

ターボタイマーの取り付けは、車室内の電気配線の近くで作業をしますので電気配線に傷を付けないように作業をしてください。電気配線に傷を付けますと、ショートの原因となり最悪の場合にはエンジンの破損や車両の破損が考えられます。

ラジエーター、エンジン本体や排気関係の部品は熱いので触ると火傷をします。必ず冷えてから作業してください。手の火傷を防ぐために作業用の手袋を着用してください。

純正ボルトやナットが暖みにくい事がありますのでスプレー式などの浸透性潤滑油を使用し適正な工具を使用して無理のない作業を行ってください。特に手の怪我を防ぐために作業用の手袋を着用してください。

注 意

弊社のデュアルターボタイマーは耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、自動車の使用条件やデュアルターボタイマー周囲の状況が想定条件よりも悪いと耐久性が落ちることがあります。

自動車の排気部品は高温になります。枯草などの燃えやすい物の上にエンジンを動かしたまま、または停止直後に停車や駐車をすると火災の危険があります。必ず自動車の下に燃えやすい物がないことをかくにんしてから停車、駐車してください。

警 告

エキゾーストマニホールドなどにオイル、ブレーキ液や洗浄溶液剤をこぼすと火災の恐れもあります。

自動車の吸気関係や排気関係の部品は正しい取り扱いをしても、自動車の使用状況や排気ガスの有害成分で部品の性能が劣化したり製品が腐食して穴が開くことがあります。このような場合には速やかに販売店や整備会社に連絡していただき、製品本来の性能が失われていたら弊社製品に交換して下さい。性能が劣化製品を放置したり腐食を放置すると、エンジンの吸入混合気や排気ガスがエンジンルーム内や車体の下部などに漏れて火災の危険があると同時に、整備不良走行で運転者が罰せられることがあります。

自動車の安全な整備はドライバーの法定責任です。定期点検整備は安全性と公害防止をはかる上で必要不可欠です。日常の点検はもとより定期点検や定期部品交換は、必ず実施してください。

部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。

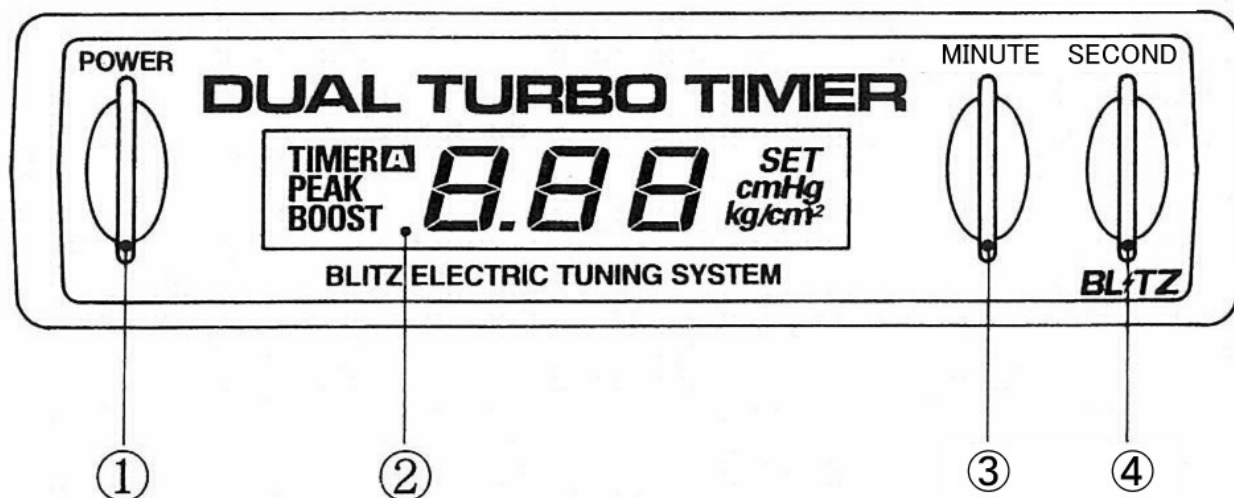
【二柱式リフトをおすすめします】

やむおえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジッドラック（馬、安全スタンド）を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対におやめください。

自動車の部品の取り外しや取り付けの作業をするときは、必ずバッテリーのマイナス端子を取り外してください。バッテリーが接続されたまま作業を行って作業中に工具が接触してショートしたりしますと、コンピューター等の電気部品が破壊されます。また、素手で作業していて触れたりしますと感電しますので危険です。

環境温度範囲 0℃～60℃

各部名称



①POWERスイッチ

表示モードの切り替え、カウントダウン中のタイマーOFFをします。

②LCD（液晶表示）

オートタイマー、マニュアルタイマー、ブースト、ピーク値（ブースト）の4種類のモード（カウントダウンの時間、マニホールド圧）を表示します。

③MINスイッチ

カウントダウンの時間（分）の設定、ターボタイマーのオート、マニュアルの切り替えをします。

④SECスイッチ

カウントダウンの時間（秒）の設定、ピーク値のリセットをします。

モード説明

デュアルターボタイマーには以下の5つの表示モードがあります。

ブーストもしくはピーク値（ブースト）表示中でもイグニッションOFFにするとあらかじめ設定しておいたモードでタイマーが作動します。

①ブースト表示モード

現在のブースト圧（ $-76\text{ cmHg} \sim 2.5\text{ Kg/cm}^2$ ）を表示します。

②ピーク値（ブースト）表示モード

リセット操作をするまでのブーストの最高値を表示します。なお、この値はエンジンを切ってもリセット操作するまでメモリーし続けます。リセット操作をするとその時点からまた新たにピーク値をメモリーします。ピーク値を表示中に最高ブーストが更新されればその値が表示されます。

③オートタイマーモード

オートタイマーのアイドリング時間が表示されます。ブーストの変化や運転状況に応じリアルタイムでアイドリング時間が増減します。

なお、このモードはディーゼルターボ車には使用出来ません。

④マニュアルタイマーモード

このモードでは任意にアイドリング時間を設定できます。本体右側のMIN、SECスイッチで設定をします。

⑤OFFモード

すべての表示をOFFにして、タイマーを作動させません。

表示モードにおける各動作

表示モード	MINスイッチ	SECスイッチ	タイマー動作	マーク表示
ブースト圧表示	AUTO/MANU 切り換え	—	AUTO/MANU	BOOST “A”点灯/“A”消灯
ピーク値表示	AUTO/MANU 切り換え	ピーク値リセット	AUTO/MANU	PEAK “A”点灯/“A”消灯
AUTOタイマー表示	—	—	AUTO	TIMER SET “A”点灯
MANUタイマー表示	分設定	秒設定	MANU	TIMER SET “A”消灯
OFF	—	—	—	全消灯

タイマー作動

エンジンを切るとあらかじめ設定しておいたモード（オート、マニュアル）でターボタイマーが作動します。表示部液晶表示は緑から赤に変わり、デジタル音が鳴るためタイマー作動が容易に確認出来ます。

・タイマーにはオートモードとマニュアルモードの2種類があり、あらかじめ設定しておいたモードでタイマーを作動させることができます。

ブーストもしくはピーク値表示中でもイグニッションOFFにするとあらかじめ設定しておいたモードでタイマーが作動します。

1 オートタイマーモード

表示の初期設定は10秒になっていますが、走行状態によりアイドリング時間がリアルタイムで増減します。

（最小10秒～最大5分まで）

このモード表示中はオートタイマーのみの設定になります。

※注意 ディーゼルターボ車は負圧が出ないため正確なアイドリング時間の算出が出来ません。ディーゼルターボ車はマニュアルモードを使用してください。ガソリン車でも負圧が取れていないと正確なアイドリング時間を算出出来ません。

2 マニュアルタイマーモード

初期設定は1分になっています。MINスイッチで分を、SECスイッチで秒を設定できます。

MINは0分～9分まで1分毎 SECは0秒～50秒まで10秒毎

設定したアイドリング時間はもう一度設定し直さない限りエンジンを切ってもメモリーし続けます。

このモード表示中はマニュアルタイマーのみの設定になります。

●オート、マニュアル作動の設定方法

オート作動 ① オート タイマーモードを表示する。

② ブースト表示モード、ピーク値（ブースト）表示モード中にMINスイッチを押し“A”の文字を表示させる。

マニュアル作動 ① マニュアルタイマーモードを表示する。

② ブースト表示モード、ピーク値（ブースト）表示モード中にMINスイッチを押し“A”の文字を消す。

オート、マニュアルどちらのモードでもタイマー作動中にPOWERスイッチを押すと、タイマーは停止します。但し、マニュアルモードで設定したアイドリング時間はクリアされません。

タイマー作動中にMIN、SECスイッチを押すと作動中のアイドリング時間が変わります。

安全対策

セーフティー回路が接続されていると

サイドブレーキが引かれていないとカウントダウン動作に入りません。またカウントダウン作動中にサイドブレーキが解除されると、カウントダウン動作を停止します。

車速パルス信号が入っているときはカウントダウン動作に入りません。またカウントダウン中に車速パルスが入ると、カウントダウン動作を停止します。

※一部の車両に車速信号を配線できないものがあります。（イグニッション OFF 時に車速パルスが変化するのでタイマー動作を中止してしまうため）車速信号線を配線しなくてもタイマー動作は出来ます。

ブースト計使用方法

ブースト計には現在のブースト表示とピーク値表示の2種類があります。ブースト表示範囲は $-76\text{ cmHg} \sim 2.5\text{ Kg/cm}^2$ です。

ブーストもしくはピーク値モード表示中でもイグニッションOFFにするとあらかじめ設定しておいたモードでタイマーが作動します。（タイマー作動参照）

1 ブースト表示モード

①現在のブースト圧を表示します。

このモード表示中にタイマーのオート、マニュアルの設定を変えることができます。（タイマー作動参照）

2 ピーク値表示モード

②リセット操作をするまでのブーストのピーク値を表示します。このモードの状態ではピーク値がさらに上がればその値をリアルタイムに表示し、ピーク値を更新し続けます。なお、このピーク値はエンジンを切ってもリセットしない限りメモリーし続けます。他のモードの表示中やスイッチOFFの状態でもピーク値はメモリーされます。

リセットはSECスイッチを押します。これで、この時点からのピーク値を新たにメモリーし始めます。

このモード表示中にタイマーのオート、マニュアルの設定を変えることができます。（タイマー作動参照）

スイッチオフ

このモードにすると3秒後に表示が消えパワーオフになります。エンジンを切ってもタイマーは作動しません。

タイマー作動中にこのスイッチを押すとタイマーは停止します。設定したアイドリング時間はクリアされません。このモードのままエンジンを切り再度エンジンをかけたときは、LCDが点灯し“OFF”の表示をし、3秒後にLCDが消灯し文字が消えます。電源ONにするにはPOWERスイッチを押してください。

なお、スイッチOFFの状態でもブーストのピーク値は更新されます。

取付作業手順

警 告

作業中の怪我、火傷

装着作業は専門の整備工場などに依頼してください。

本説明書の内容を十分理解した上で実施してください。

作業が終了しましたら、本取扱説明書は必ずお客さまに返却してください。

結線及びアースは確実に行ってください。アースの結線場所は、樹脂や塗装装面を避けて金属面を選んでください。アース不良になりますと、ターボタイマーの作動不良や製品の破損の原因となります。

最低限必要な工具			
☐ スパナセット	1 個	☐ マイナスドライバー	1 個
☐ ソケットレンチ	1 個	☐ プラスドライバー	1 個
☐ プライヤー	1 個	☐ 作業用手袋	
☐ モンキースパナ	1 個	☐ ウェス	
☐ ハサミ	1 個		

取り付けについての注意

1. マイコンプリセット・オートチルトステアリング装着車について

マコンプリセット・オートチルトステアリング装着車に本製品を取り付けた場合、イグニッションキーを抜いても、ステアリングホイールはチルトアップしませんのでご注意下さい。

2. オートライトコントロール装着車について

オートライトコントロール車に、本製品を取り付けた場合ライトスイッチをAUTOの位置でターボタイマーを作動させると、タイマー終了後もライトが点灯状態になることがありますのでご注意下さい。

例) マークII、チェイサー、クレスト、ソアラ、セドリック、グロリア、シーマ等

3. エアコン作動について

車種によってエアコン作動時に非常に大きな電流が流れ、ターボタイマーが作動している場合には本体を破損してしまうことがあります。タイマー作動中にはエアコンのスイッチをOFFにしてください。

例) 軽自動車、62年以降のファミリア、シャレード等

4. ディーゼルターボ車の場合

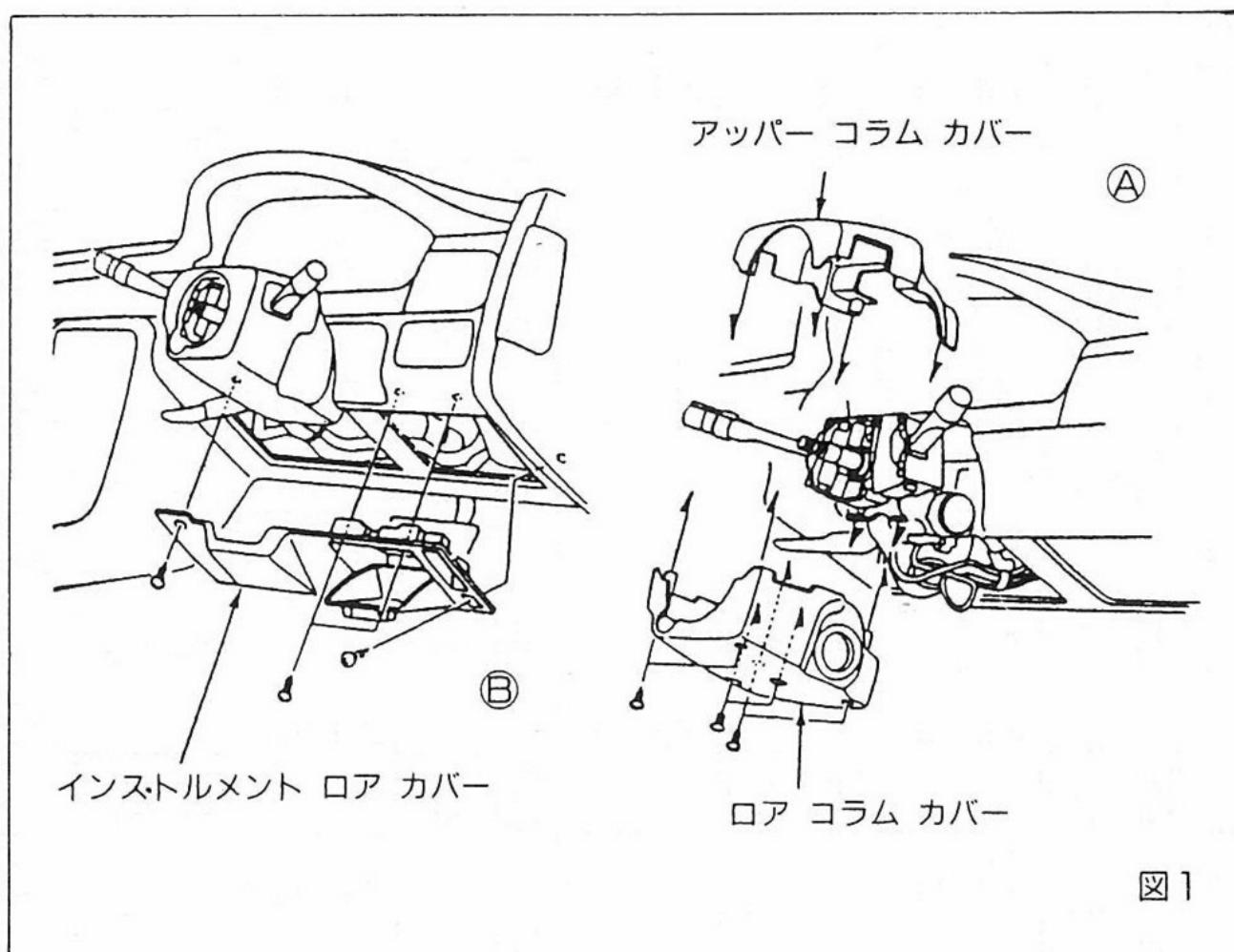
ディーゼルターボ車は負圧の取り出しが出来ないためオートモードでのタイマー作動の時正確なアイドリング時間の算出が出来ません。ディーゼルターボ車の場合はマニュアルモードを使用してください。

※ガソリン車の場合でも負圧が正確に取り出されていないとブースト圧が間違っ表示されたりオートモードのアイドリング時間が正確に算出されない場合があります。

取り付け方法

1. キースイッチコネクターの位置

図1を参照してキースイッチコネクターを見つけてください。

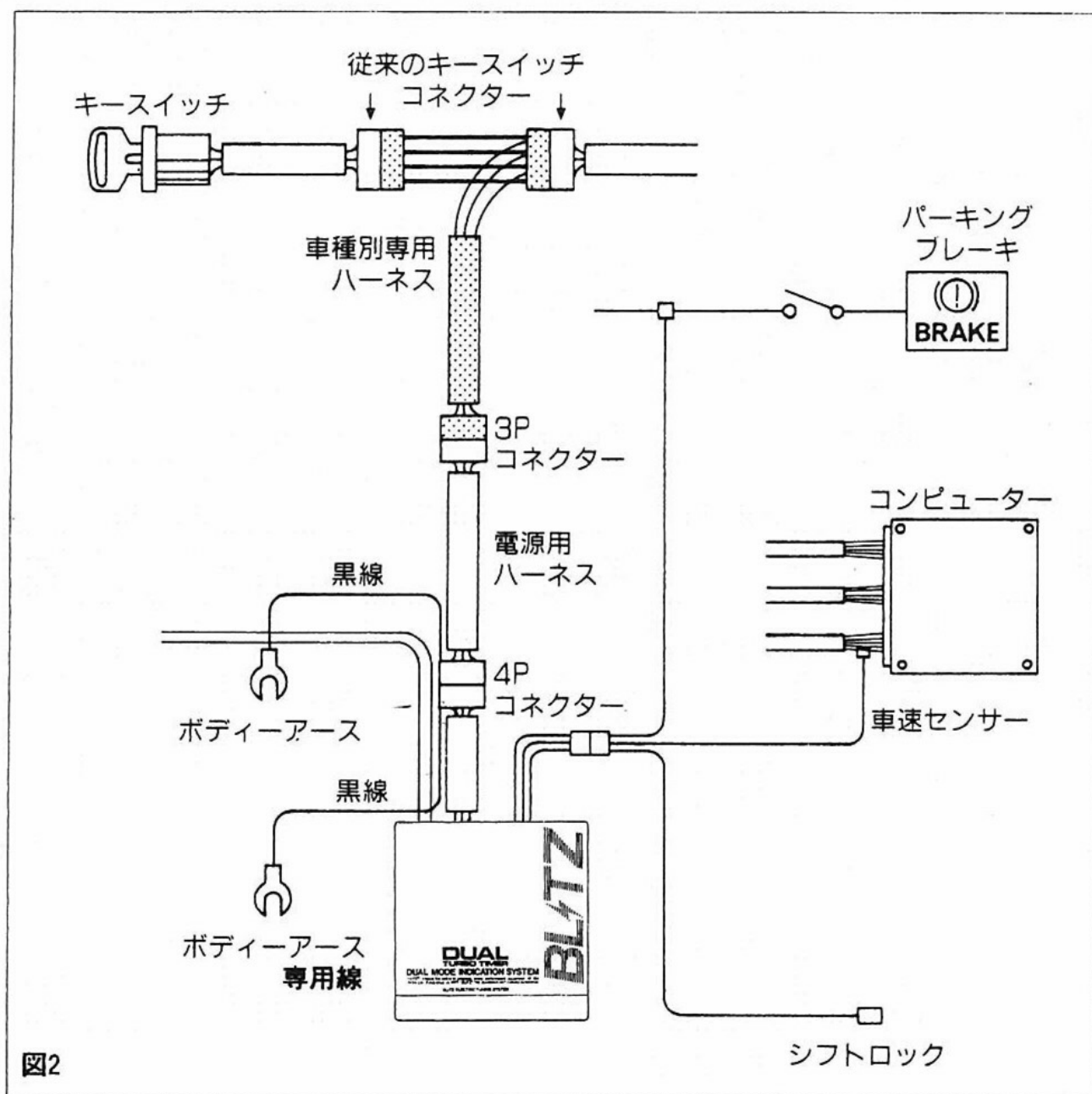


A ロアコラムカバーの裏側（ニッサン、ホンダ、ダイハツ、スズキ）

B インストルメントロアカバーの裏側（トヨタ、ニッサン、マツダ、ミツビシ、スバル）

A、Bの場所から純正のスターターカプラーを見つけて別売、車種別専用ハーネスキットを利用して、ターボタイマーを取り付けてください。

- ① 1. で見つけた純正スターターカプラーを抜き、その間に車種別専用ハーネスを接続します。
- ② 車種別専用ハーネスと電源ハーネスを3ピンコネクターで接続します。
- ③ 電源ハーネスの黒線（マイナス）を、車両の金属部分に確実にアースします。
- ④ ③で取り付けした電源ハーネスの黒線（マイナス）とは別の場所にアース専用線を接続します。接続場所は、塗装面を避けて金属部のメッキ等が施してある場所を選んでください。
- ⑤ ターボタイマー本体と電源ハーネスを4ピンコネクターで接続します。
- ⑥ 以上で電源ハーネス取り付けは終了です。
- ⑦ セーフティー回路配線はセーフティー回路取り付け方法を参照してください。



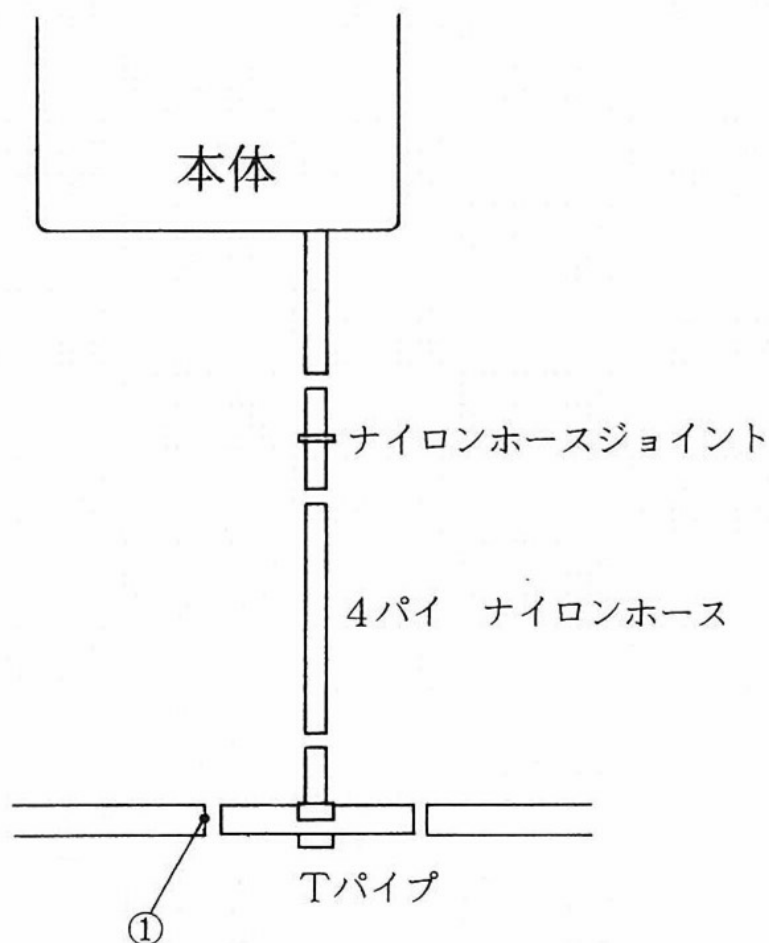
※④は必ず守ってください。

ブースト用インマニ圧の取り方

注 意

負圧が正確に取り出されていないとオートタイマーモードのアフターアイドル時間が下がることがあります。必ずスロットルより後から負圧を取り出して下さい。

- ① 図の部分のカットします。
- ② カットした部分に付属のTパイプを割り込ませてください。
- ③ Tパイプのナイロンホース差し込み口に付属のナイロンホース4φを差し込みます。
- ④ 本体から出ているナイロンホース4φに付属のナイロンホースジョイントをつなぎます。
- ⑤ ③で取り付けしたナイロンホースの反対側の端を④で取り付けしたナイロンホースジョイントに差し込みます。
- ⑥ ナイロンホースをつないだ部分は付属のタイラップ小で固定してください。



セーフティー回路の取り付け方法

1. パーキングブレーキへの配線 紫線

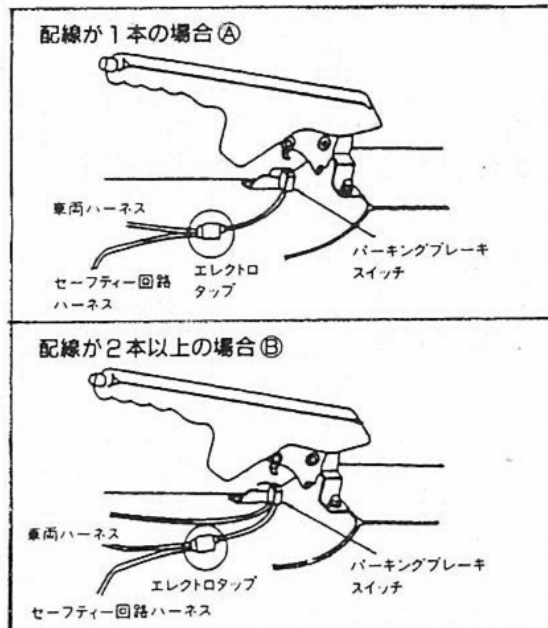
A パーキングブレーキの配線が1本の場合。付属のセーフティー回路用ハーネスの紫線をパーキングスイッチの配線に接続します。

B パーキングブレーキの配線が2本以上の場合。

① キースイッチをONの位置にします。

(エンジンは始動させない)

② パーキングブレーキを引いているときOV、解除しているとき12Vになる配線配線を探してください。配線が確認できましたらその配線に付属のセーフティー回路用ハーネスの紫線を接続してください。



注 意

パーキングブレーキへの配線は必ずしなければならないというわけではありません。パーキングブレーキへ配線しないときは、カプラーより出ている線をボディーアースしてください。

2. 車速センサーの配線 オレンジ線

■ 車速信号の取り出し方は、車両のEFIコンピューターから車速信号を取り出して、セーフティー回路用ハーネスと接続します。(EFIコンピューターの車速の信号は後のページの信号位置図を参照してください。)

■ 信号位置は■部となります。(コンピューターの、接続されているカプラーのロックを上にした状態で車両ハーネス側から見た位置です。)

注 意

車速センサーへの配線は必ずしなければならないというわけではではありません。車速センサーへ配線しないときは、カプラーより出ている線をしっかりと絶縁してください。

3. シフトロック機能への配線 (ニッサン) 白線

1988年6月以降の新型車およびオートマチック車で、キーインターロック付きシフトロック装着車にターボタイマーを取り付けると、キーロック機能が作動し、作動中にイグニッションキーが抜けなくなります。そのときは別売のシフトロック解除アダプターをご使用下さい。

注 意

シフトロックへの配線は必ずしなければならないというわけではではありません。シフトロックへ配線しないときは、カプラーより出ている線をしっかりと絶縁してください。

パーキングブレーキ、車速センサー、シフトロックへの配線は必ずしなければならないというわけではありません。どれか一つの配線を行うだけでも安全装置としての機能を果たします³⁾。

以上で全ての取り付けは終了です

4. 確認 製品取り付け後に確認してください

- 各部品はしっかりと固定されているか確認してください。長時間走行したときに部品等が外れますと、運転に支障をきたしたり本体の作動不良の原因となり危険です。
- 配線を間違えてないか確認してください。又、配線が確実に接続されているかを確認してください。配線に不具合があると、本体の作動不良の原因となります。最悪の場合は、エンジン破損の原因となります。
- 配線・配管の取り回しは、周囲の部品との干渉に注意してください。可動部と接触したり長時間の走行で配線・配管に傷がついたり配線ショートを起こしたりしますと本体の作動不良の原因となります。最悪の場合は、エンジン破損の原因となります。

作動確認

- ①エンジンを始動させ、タイマーのスイッチをONにします。
- ②ブースト圧がブーストモードで表示されることを確認してください。
- ③ブーストのピーク値がピーク値モードで表示されることを確認してください。
- ④イグニッションキーをOFFにしオートモード、マニュアルモードでタイマーが作動することを確認してください。
- ⑤セーフティー回路のパーキングブレーキの作動テストをして下さい。タイマー作動中にサイドブレーキを解除した時点で、エンジンが停止することを確認してください。
- ⑥セーフティー回路の車速信号の作動テストをしてください。ギヤをローに入れて車をゆっくり前進させた時点で、エンジンが停止することを確認してください。

注 意

ターボタイマー作動確認の時は必ずニュートラルかパーキングの位置にして、フットブレーキを踏んだ状態で行ってください。又、周囲に人がいないことを確かめてから行ってください。

故障と思う前に

故障と判断する前に下記の点をもう一度確認してください。

- ①配線ミス、カプラーの差し込みは確実か？
- ②アース線（黒線）は確実にボディーアースしているか？
- ③エレクトロタップは確実に導線をかんでいるか？
- ④操作方法は正しいか？